

地域おこし協力隊員として2人に委嘱

某テレビ局のドラマにもなった、地域おこし協力隊が5月1日から多久市にやってきました。

地域おこし協力隊とは、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取り組みです。

具体的には、地方自治体が都市住民を受け入れ、地域おこし協力隊員として委嘱し、一定期間以上、農林漁業の応援、水源保全・監視活動、住民の生活支援などの各種の地域協力活動に従事していただきながら、地域への定住・定着を図っていく活動です。



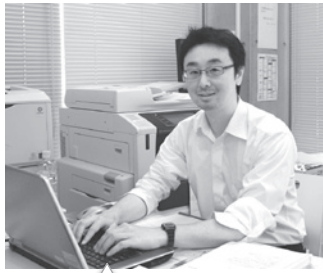
▲5月1日の委嘱状交付式の様子。緊張した面持ちで横尾市長から委嘱状を手渡されました。



協力隊員プロフィール

中村慎一朗さん (37歳)

東京都豊島区から多久へ来られた中村さん。出生地は福岡県で高校までを過ごし、愛媛大学に進学。東北地方に就職後、東京の大学で商店街を中心とした商業史・観光史について研究をされていました。



「あいぱれっと」に來れば多久の情報がわかる空間にし、市民や観光客にとって魅力的な「多久の顔」にしたい。イベントや発表の場として活用し市民の一体感を創り上げていきます。

協力隊員プロフィール

西野 実穂さん (31歳)

佐賀市から多久へ来られた西野さん。出生地は福岡県で西南学院大学を卒業後、佐賀市で就職。農業ボランティアをオーストラリアや北海道、武雄市で行ってこられました。



農業体験を通じ、自然のありがたさや食物への感謝の心が芽生えました。温かく私を見守り、横のつながりが深い地域の力を結集して、自分自身も勉強しながら活性化に取り組みます。



西野さんは、西多久町の農産物直売所「幡船の里」の運営や伝統野菜などの6次化、加工品の開発、販売所と消費者をつなぐ農産物販路の拡大等の支援を行っています。



市長コラム

| 温 | 故 | 創 | 新 |

Message for citizen

希望を未来につなぐ千年希望の丘

市長 横尾俊彦

6月は水無月と呼びますが梅雨入りの月。台風終了まで災害要注意です。天候にご注意下さい。

1年前のこと。東日本大震災の被災地・宮城県岩沼市の「千年希望の丘・植樹祭」に参加しました。緑の堤防をつくり、故郷を守り、未来の希望をつなぐ壮大な思いと協力要請を、当時の井口市長から伺い、消防作業服姿で参加したのです。

仙台空港傍の会場に約7千人が集合。開会式では小泉進次郎復興担当政務官も挨拶。海岸沿いの帯状の丘にタブ・椎・桜などの広葉樹16種7万本の苗木を植えました。植林生態学者の宮脇昭先生が指導され、小泉政務官やミュージシャン石井竜也さん、俳優西村雅彦さん等も参加されました。まさにそこは津波が集落・田畑を呑みこみ広がった所です。丘は災害廃棄物ガレキの有効活用で築造され、植樹の完成後は津波の減衰、いざという時の避難場所、防災教育の場所、メモリアルパークに活用される計画で、今年も5月末に実施。

災害を越えて未来へ進む意志と努力の大切さを感じます。でも被災地では本格復興への道半ばは状況もあり、改めて防災対策を考えさせられます。

地域の安全安心を守ることは行政の基本使命の1つで、その遂行のため5月に防災パトロールと防災会議を行い、今後の大雨・台風などの災害に備えています。万全しっかり対応して参ります。

皆様も携帯端末等で気象サイト登録、防災メール登録など、日頃からの対応もお願いします。